⑫ 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

## 2 公開特許公報(A)

昭55-147806

§Int. Cl.<sup>3</sup> H 01 Q 1·12

識別記号

昭54(1979)5月7日

庁内整理番号 7105-5 J 3公開 昭和55年(1980)11月18日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 4 頁)

**ᡚ**ロッドアンテナ

22出

②特 願 昭54-55821

②発 明 者 大内克朗

門真市大字門真1006番地松下電 器産業株式会社内

①出 願 人 松下電器産業株式会社 門真市大字門真1006番地

五代 理 人 弁理士 中尾敏男

外1名

1 #A #1

1、発明の名称

ロッドアンテナ

## 2、特許請求の範囲

アンテナボ体の基底金具を観着する台金具をガイド金具に対して出入自在に取付けると共に、上記基底金具をカエ形状に形成し、その外間がガイド金具と同一位置関係にあるシャフトに当接するようにし、アンテナボ体を含金具に対して河一方向になるように回動したとき、上記基底金具のカム面によって上記台金具が上記ガイド金具より選出するように構成したロッドアンテナ。

3、発明の評価な説明

本金明はラジオ受信機等の無線機器に使用する ロッドアンデナに伝う、簡単で構成で優れたロッ エンディを対応することを言うますをよるでき

・粉にロッドアンテナは、埋稲目在サブンデナ エモ」、エニニンデーは田分がみずりは全月にで 水吹されている。そして、エンエ・ピニンデーを ラジオ受信機等の無線機器に取付ける場合には、 第1 図、第2 図に示すように無線機器のキャビネット1 に形成した凹部2 にロッドアンテナを構成 する台金具3 を挿入固定し、アンテナな体4 が台 金具3 及び 枢軸5 を中心に回動可能なように取付 けるのが存通である。ところで、この場合、 従来 よう用いられているロッドアンテナはいずれも台 全員3 か伸縮不能なものであり、したがって、 ア ンテナな4 4 の回動操作を容易にするためには必 ず含金具3 を予めその先端がキャビネット1 より 光分失出するように取付けなければならないとい …

な発明は以上のような従来の欠点を除去するものであり、アンテナボルを収着する台金具をアンナナエはの回動物体に関連して連絡可能をように 減戻したものである。

(1) で、北急用のロッドアン中ナについて一月製 例の図面と中に説明する。所3回~第5 号にかい て6 に伸びさらてはいるれたアンナナルは、7 ミ アンチナルは6 りた四部に手収され中央部に取り アンチナルは6 りた四部に手収され中央部に取り

1**\$\$**78 .

孔8を有するカム形状の基底金具、9は先端に基 廃金具でが挿入される切響1〇を育し、中央部に 筒11を有する台金具、12は基底金具でを台金 **は9に配着するために台金は9の先端に形成した** 取付孔13及び上記集度金具7の取付孔8に強人 された似軸、14は台金具9の末端部が出入目在 に挿入される凹部15を有するガイド金具、16 は、末端部がガイド金具14の外間に嵌合固定さ れた筒状のガイドパイプ、17はガイドパイプ 16 の先端部に形成された内側に突出する詞部 18と 上記台金具9 に形成した調11との間に設けられ 上記台金具9を常にガイド金具14間に存在する。| 1997年 スプリング、19は台金具9の中心孔20に挿入 され先端が常時基底金具での外周に当接している シャフト、21はガイド金具14つ末端部に形成 された取付用の螺子孔である。

上記実施例において台金具9は末端部がガイド 金具14の凹部15に出入自在に挿入されており、 ガイドパイプ16とガイド金具14によって軸方 向に摺動自在に支持されている。そして、台金具

第1図は従来のロッドアンテナを備えた無線機 器の斜視図、第2図は同機器の一部切欠側面図、 丁河日本最近のロードでであります。または、山西南河、 第4回は同4-A、新面図、第5回は同アンテナの サギル

分解斜視図、第6図は同アンテナの動作説明図、 第7図~第9図は同アンテナを無線機器のキャビ ネットに取付けた状態の説明図である。

6……アンテナポ体、7……装成金具、8…… 取付孔、9……台金县、10……切得、11…… 贺、12……似帕、13……取付孔、14……ガ イド金具、15……凹部、16……ガイドパイプ 17……スプリング、18……鍔部、19……シ ャフト、20……中心孔、21……碟子孔、22 ……キャピネット、23……四帯

代理人の氏名 弁理士 中 尾 歌 男 ほか1名

収納するようにすることも可能であり、この場合 にはアンテナ本体6の不使用時にアンテナ本体6 がキャビネット22より突出する量が著しく少な くなり実用上きわめて有利なものである。

以上、実施例より明らかなように、本発明のロ ッドアンデナはアンテナ本体を収着する台金具に 対して出入自在に取付け、アンテナ本体を台金具 に対してほど直交する方向に倒した状態では台金 具がガイド金具内内に充分に挿入されてンテナ本 /まま信 体を台金具に対しで同方向になるように立てたと きにはアンテナ本体の基底金具に形成したカム面 の働きによって台金具自体がガイド金具より突出 する方向に移行されるように構成したものであり、 アンテナ本体をキャビネットに対して相当接近す うように取付けたとしてもアンチナギはの使用戦 にはいまりがありし、アイデナなはがキュビス

ぶむして相当群れた出他にを支えが、コンディ 4.16.00mm 有线设备各类做设备,有点设置积分。 かんなものである

4、河流の領电を認可

持開昭55-147806(2)

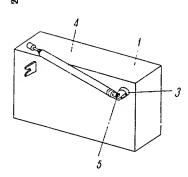
9 は常時スプリング17によってガイドバイブ16 に対して直交する方向に倒している状態では、京 3図、第4図に示すようにガイドバイブ16の先 雄より美山する部分が少なくなっている。

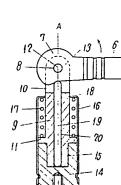
今、アンテナギ体 6 全収幅1 2 を中心に用る図 矢印の方向に回動したとすると基底金具でのカム 面がシャプト19の先端に当接するようになるた め、第6国に示すように台金具19がスプリング 17の力に行してガイドパイプ16より突出する 万向に移行されガイドパイプ16より実出する部 分が大きくなる。

したがって、上記其配例のコッドアンテナによ れば、第7図に示すようにアンテナ本は6を相当 キャビネット22に近接するように取付けたとし てもその便用時には第9図に示すように台金具9 が相当実出するため、アンテナド体6の操作自体 には何ら支障がなくきわめて有効なものである。 特に、上記実施例によれば第7図、第8図に示す ようにキャビネット22にアンテナ本体6を収納 する凹櫓23を形成し、ここにアンテナ本体6を

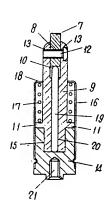
-28-

13872



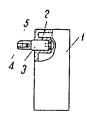


21

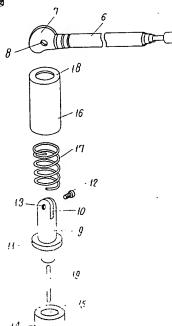


**BEST AVAILABLE COPY** 

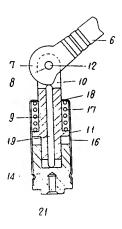






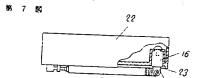


6 5



-29-

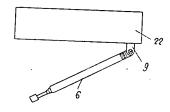
持開昭55-147806(4)



\$1 S E4



第 9 数



(54) ROD ANTENNA

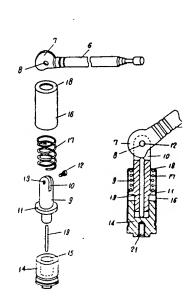
(11) 55-147806 (A) (43<u>) 18 11 1980</u> (19) JP

(21) Appl. No. 54-55821 (22) 7.5.1979 (71) MATSUSHITA DENKI SANGYO K.K. (72) KATSUROU OOUCHI

(51) Int. Cl3. H01Q1/12

PURPOSE: To eliminate hindrance of the operation itself of an antenna main body by constituting the stand metallic jig, which fixed the antenna main body pivotally, so that this jig can expand and contract in relation to the turning operation of the antenna main body.

CONSTITUTION: Stand metallic jig 9 has the terminal part inserted to concave part 15 of guide metallic jig 14 so that the terminal part above can be fitted to and removed from part 15 freely, and metallic jig 9 is supported slidably in the axis direction by guide pipe 16 and metallic jig 14. When metallic jig 9 falls to a direction orthogonal to pipe 16 by spring 17, the protrusion part of metallic jig 9 is a little. When antenna main body 6 is turned in the arrow direction with pivot 12 as the center, the cam face of base metallic jig 7 is brought into contact with the tip of shaft 19, and metallic jig 9 is transferred to the direction, where metallic jig 9 is protruded from pipe 16, against force of spring 17, and thus, the protrusion part of metallic jig 9 becomes large.



THIS PAGE BLANK (USPTO)

THIS PAGE BLANK (USPTO)